

デリーー東北

2025年(令和7年)8月20日(水曜日) (3)

顧客、樹木管理 アプリで

八工大生開発
効率化を支援

岩館りんご園(八戸)に納品



アプリの使い方を確認する関口結実さん(右)と
岩館岳さん=19日、八戸市

地域企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)推進を支援するため、八戸工業大(船崎健一学長)は、八戸市の岩館りんご園(岩館英理代表)向けに顧客や樹木の管理などを行うアプリを開発した。19日は、開発者の同大学院1年関口結実さん(24)が同園を訪れ、アプリを納品。副代表の岩館岳さんと共に

操作確認を行った。同大とデリーー東北新聞社、近田会計事務所(同市)の3者によるDX支援プロジェクト。開発したのは顧客や商品、商品配送などの情報や園内全ての樹木情報などを管理する7種類のアプリで、ノーコードツール(kintone)を活用した。同園は3・6畝の園地で、約300本のりんご

を栽培。秋の繁忙期には、収穫のパート従業員を雇っているが、基本的には岩館代表と長男で副代表の岳さんによる家族経営で、これまで大半の情報は控え伝票など紙ベースで処理していた。

導入されたアプリで顧客をデータベース化し、受注履歴も一目で分かるよう管理し、配送管理は、運送会社の送り状発行システムとの連動を簡易化。樹木管理はクラウド上で病歴などを記録し、樹木ごとに張り付けたQRコードを読み取ること

で、現地で情報を確認できるようになった。作業の効率化、省力化だけでなく、データとして蓄積されることから、将来的

な事業承継を円滑に進めることが可能になる。

同日は、関口さんがそれぞれのアプリの操作方法を実際の画面を見ながら岳さんに説明した。岳さんは「今まで以上に作業が縮小することが見込める。新しい商品開発や品種の栽培に時間を割くことができる」と期待感を示した。

関口さんは「地方における大きな課題の一つは人手不足。アプリを使うことで労力の軽減、省力化を図ることができた。地域密着型の八戸工業大の学生として、地元貢献できるような今後も研究に取り組みたい」と意気込んだ。

(向屋敷 聡)

【病歴管理】	
病名	うどんこ病
いつかかったのか	2025-08-19
いつ治ったのか	
病気になったときの状況	

樹木管理アプリの画面。QRコードを読み込むことで樹木の状態や病歴を端末で確認することができる

※この記事・写真等は、デリーー東北新聞社の承諾を得て転載しています。